

津山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	実践英語 I
科目基礎情報					
科目番号	0007	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Successful Keys to the TOEIC Goal: 500 (Kiriara) 参考書: 辞書 (電子辞書ふくむ)				
担当教員	ランポー エリック				
目的・到達目標					
[学習目的] 研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につけていること。					
[到達目標] 1. 本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。 2. 国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。 3. 文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。 4. 自分の到達度を測る手段としてTOEICをはじめとした語学試験のスコアを上げることができる。 ◎: 技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につけていない。	
評価項目2	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがスムーズにできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがなんとかできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができない。	
評価項目3	文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。	文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。	文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿をかるうじて用意することができる。	文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができない。	
評価項目4	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を十分に解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をとおむね解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をいくつか解くことが最低限できる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができない。	
評価項目5	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることが十分にできる。	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることがおおむねできる。	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることが最低限できる。	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 外国語 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 英語・英米文学・言語学・音声学</p> <p>専攻科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(6) 校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。</p> <p>授業の概要: プレゼンで頻用される表現やテクニックを学習しながら、英語での発表ができるようにする。TOEICテストの準備も行う。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>授業の方法: 授業での表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に、TOEICのテキストを用いて、TOEIC受験に向けた対策も進めていく。 成績評価方法: 毎週の演習(口頭発表・課題提出・小テストなど)を50%、2回の定期試験の結果を同等に評価する50%</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段としてTOEICが広く認められている現状を踏まえ、TOEICを積極的に受験する姿勢を持って欲しい。 基礎科目: 英語IV(4年)、選択英語I(4)、英語V(5)、選択英語II(5) 関連科目: 技術英語講読(専1) 受講上のアドバイス: 授業前に必ず、予習をしてくること。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2回の遅刻で1単位時間の欠課とする。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	年間ガイダンス, e-learning及びTOEICの説明		授業概要を理解する
		2週	Describing company profiles (products, sales, specifications, etc.) TOEIC Unit 1		Understand company profiles TOEICを受験する準備ができる

2ndQ	3週	Quiz; Researching a company and product TOEIC Unit 2	Understand how to research a company TOEICを受験する準備ができる
	4週	Making visual aids for PPT-1 Describing the role of profit TOEIC Unit 3	Can make good visual aids Understand profit TOEICを受験する準備ができる
	5週	PPT-1 corrections, practice TOEIC Unit 4	Can deliver the presentation smoothly TOEICを受験する準備ができる
	6週	PPT-1を行う、ファイルを提出	Deliver the presentation smoothly, use visual aids effectively
	7週	まとめと中間試験対策 TOEIC Unit 5	TOEICを受験する準備ができる
	8週	中間試験	
	9週	中間試験の答案返却と試験解説 Understanding the role of foreign operations TOEIC Unit 6	Understand foreign operations TOEICを受験する準備ができる
	10週	Research a Japanese company's foreign operations TOEIC Unit 7	Conduct effective research TOEICを受験する準備ができる
	11週	Research a Japanese company's foreign operations, TOEIC Unit 8	"
	12週	PPT-2 corrections, practice TOEIC Unit 9	Construct effective presentation TOEICを受験する準備ができる
	13週	PPT-2を行う、ファイルを提出	Deliver the presentation smoothly, use visual aids effectively
	14週	まとめと期末試験対策 TOEIC Unit 10	TOEICを受験する準備ができる
	15週	(期末試験)	
	16週	期末試験の答案返却と試験解説 授業のまとめ	授業のまとめ

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	50	0	0	30	20	100
基礎的能力	0	45	0	0	25	20	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	5	0	0	5	0	10

津山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	実践英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0026	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Successful Keys to the TOEIC Goal: 500 (Kiriara) 参考書: 辞書 (電子辞書ふくむ)				
担当教員	ランポー エリック				
目的・到達目標					
<p>[学習目的] 研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>[到達目標] 1. 本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。 2. 英語によるプレゼンテーション能力を身につける。 3. 自分の到達度を測る手段としてTOEICを利用し、履修後にスコアを上げることができる。 ◎技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。</p>					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いていない。	
評価項目2	英語によるプレゼンテーション能力を十分に身につける。	英語によるプレゼンテーション能力をおおむね身につける。	英語によるプレゼンテーション能力を最低限は身につける。	英語によるプレゼンテーション能力を身につけられない。	
評価項目3	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をとおおむね解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をいくらか解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができない。	
評価項目4	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることがおおむねできる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることが最低限できる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別・学習の分野: 一般・外国語 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 英語・英米文学・言語学・音声学 専攻科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(6) 校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。 授業の概要: プレゼンで頻用される表現やテクニックを学習しながら、英語での発表ができるようにする。TOEICテストの準備も行う。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>授業の方法: 授業での表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に、TOEICのテキストを用いて、TOEIC受験に向けた対策も進めていく。</p> <p>成績評価方法: 毎週の演習(口頭発表・課題提出・小テストなど)を50%、2回の定期試験の結果を同等に評価する50%</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段としてTOEICが広く認められている現状を踏まえ、TOEICを積極的に受験する姿勢を持って欲しい。 基礎科目: 英語IV(4年)、選択英語I(4)、英語V(5)、選択英語II(5)、実践英語I(専1) 関連科目: 技術英語講読(専1)</p> <p>受講上のアドバイス: 授業前に必ず、予習をしておくこと。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2回の遅刻で1単位時間の欠課とする。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	年間ガイダンス、e-learning及びTOEICの説明		授業概要を理解する
	2週	Describing company profiles (products, sales, specifications, etc.) TOEIC Unit 1		Understand company profiles TOEICを受験する準備ができる	
	3週	Quiz; Researching a company and product TOEIC Unit 2		Understand how to research a company TOEICを受験する準備ができる	

2ndQ	4週	Making visual aids for PPT-1 Describing the role of profit TOEIC Unit 3	Can make good visual aids Understand profit TOEICを受験する準備ができる
	5週	PPT-1 corrections, practice TOEIC Unit 4	Can deliver the presentation smoothly TOEICを受験する準備ができる
	6週	PPT-1を行う、ファイルを提出	Deliver the presentation smoothly, use visual aids effectively
	7週	まとめと中間試験対策 TOEIC Unit 5	TOEICを受験する準備ができる
	8週	中間試験	
	9週	中間試験の答案返却と試験解説 Making your Curriculum Vitae (CV) in English TOEIC Unit 6	Understand CV format and purpose TOEICを受験する準備ができる
	10週	Conducting a job interview in English TOEIC Unit 7	Able to respond effectively in a job interview TOEICを受験する準備ができる
	11週	Start PPT-2 "My CV and Seminar Research" TOEIC Unit 8	Understand how to relate research to job seeking TOEICを受験する準備ができる
	12週	Quiz; PPT-2 corrections, practice TOEIC Unit 9	Can deliver the presentation smoothly TOEICを受験する準備ができる
	13週	PPT-2を行う、ファイルを提出	Deliver the presentation smoothly, use visual aids effectively
	14週	まとめと期末試験対策 TOEIC Unit 10	TOEICを受験する準備ができる
	15週	(期末試験)	
	16週	期末試験の答案返却と試験解説 授業のまとめ	授業のまとめ

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	25	0	0	15	10	100
基礎的能力	50	25	0	0	15	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	国際文化論
科目基礎情報					
科目番号	0008	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 特になし (プリント配付), 参考書: 『中国語学習&異文化理解ハンドブック』 (アルク)				
担当教員	杉山 明				
目的・到達目標					
学習目的: 文化的偏見を捨て、今後さらに発展するであろう日中交流に寄与できる能力を身につける。					
到達目標 1. 中国社会の、日本とは違った側面を理解する。 2. 他文化の存在を理解し、またそれを許容する視点を身につける。 3. 自己の主張、考えを、論理的に説明することができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	自分たちと異なる文化を理解、許容しそれとの協力、共生の心を持つことが出来る。	自分たちと異なる文化を理解、許容しすることが出来る。	自分たちと異なる文化を理解、許容しすることが出来る。	自分たちと異なる文化を理解、許容することができない。	
評価項目2	隣国中国の文化、社会事情を理解し、日本及び日本人の採るべき思考、行動を考えることが出来る。	日本との比較を通じて、隣国中国の文化、社会事情を理解することが出来る。	日本との比較を通じて、隣国中国の文化、社会事情を理解することが出来る。	隣国中国の文化、社会事情を理解することが出来ない。	
評価項目3	自己の主張、考えを、情熱と説得力を持って記述することが出来る。	自己の主張、考えを、情熱を持って記述することが出来る。	自己の主張、考えを、情熱を持って記述することが出来る。	自己の主張、考えを、うまく記述することが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別: 一般 学習の分野: 人文・社会 基礎となる学問分野: 中国語/東洋史/中国哲学/中国文学 専攻科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(6) 校外実習, 先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B) 地球的視野に立った人間性の育成, B-2: 地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」であるが、付随的には「B-1」にも関与する。 授業の概要: 伝統的な中国文化とともに現代中国事情を解説する。適宜、課題図書も与える。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の方法: 1.5週を後期に集中して行う。1回の授業の中で、中国文化に関連するテーマひとつを講義する。試験は中間考査と期末考査の2回実施する。レポートも2本課す予定。 成績評価方法: 2回の試験の結果が70%, 課題レポート2本で30%の比重とする。課題レポートは、中国語および中国社会をどれだけ理解し、かつ自身とは異なった価値観をどの程度許容する視点を身につけることができたかが評価の基準となる。				
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として1.5単位時間開講するが、これ以外に3.0単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 事前に行う準備学習として、中国や台湾に関するニュースに注意を払っておくこと。また学士の認定を受けるためには必要な講座なので、その点をよく理解して受講すること。 基礎科目: 世界史(1年), 政治経済(2), 異文化社会論I(4) 関連科目: 国際コミュニケーション演習(専1年), 社会科学概論(専2) 受講上のアドバイス: 平素から中国に関係する新聞やテレビ等の報道やニュースに関心を払うことが大切である。遅刻時間が20分を過ぎれば欠課扱いとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
選択					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	なぜ中国を学ぶか	中国研究の必要性を理解する。	
		2週	地理と言語, 民族等	中国の地理と言語, 民族等を理解する。	
		3週	戦後中国の歴史と文化大革命	戦後中国の歴史と文化大革命の実態を理解する。	
		4週	国家意識と一族主義	中国人の国家意識と一族主義を理解する。	
		5週	中華思想 儒家と道家	中華思想 儒家と道家について理解する。	
		6週	性悪説と性善説 歴史観	性悪説と性善説、および中国人の 歴史観を理解する。	
7週	中間試験	これまでの学習内容の理解度を確認する。			

2ndQ	8週	中間試験の返却と解説	これまでの学習理解の足りない部分を補う。
	9週	一人っ子政策と高齢化問題 参考文献の購読, 課題レポートの作成	中国の一人っ子政策と高齢化問題を理解する。参考文献を購読し, 課題レポートを作成する。
	10週	格差社会	中国社会の抱える格差問題について理解する。
	11週	台湾と香港	台湾と香港の歴史、状況について理解する。
	12週	環境破壊	中国の環境問題を理解する。
	13週	偽ブランド	中国に於ける偽ブランド、商標侵害問題を理解する。
	14週	中国企業の現在 参考文献の購読, 課題レポートの作成	特に中国の国営企業の現状を理解する。参考文献を購読し, 課題レポートを作成する。
	15週	期末試験	これまでの学習内容の理解度を確認する。
	16週	期末試験の返却と解説	これまでの学習理解の足りない部分を補う。

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	現代哲学
科目基礎情報					
科目番号	0028	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	なし				
担当教員	神谷				
目的・到達目標					
<p>学習目的：この授業は、生命倫理をはじめとした現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって、技術者として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。</p> <p>到達目標</p> <p>1 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。</p> <p>2 現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。</p> <p>◎ 3 人間性、教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。</p> <p>◎ 印がついているものは、分野横断的能力の到達目標です。</p>					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その詳細を発展的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目2	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、詳細かつ発展的に説明できる。	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目3	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ発展的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ基本的表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的表現することができる。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別：一般          学習の分野：人文・社会          必修・履修・履修選択・選択の別：選択</p> <p>基礎となる学問分野：哲学／倫理学</p> <p>学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学習・教育目標「(5)工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに、広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(G) 技術者倫理の理解、G-1：倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め、技術者として社会に対する責任を自覚し、説明できること」である。</p> <p>授業の概要：現代の工学技術者・工学研究者にとって倫理教育は不可欠の教養となっている。今年度の「現代哲学」では、哲学・倫理学の根本問題を取り上げることによって、科学技術文明について考察を深めたい。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>授業の方法：後期開講。受講生自身と議論することによって授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。</p> <p>成績評価方法：          1回のレポート（50％）。授業中の発表あるいは授業内容を確認する報告書（50％）。再試験は実施しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として1.5単位時間開講するが、これ以外に3.0単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。</p> <p>履修のアドバイス：レポートが必ず課されるので、平素から新聞等を読む習慣をつけて、自分なりの問題関心をもつこと。事前に行う準備学習として、その時点までの講義内容と疑問点の整理をしておくこと。</p> <p>基礎科目：倫理（全系1年）、工業倫理学（全系5）</p> <p>関連科目：工学倫理（専1年）</p> <p>受講上のアドバイス：平常点・出席点は成績評価で考慮しないが、必ず授業時間数の2/3は出席すること。遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を1欠課とするという措置はとらない。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
選択					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	到達目標全般の説明	
		2週	現代哲学の基礎	到達目標1と3	
		3週	前項の続き	到達目標1と3	
		4週	前項の続き	到達目標1と3	
		5週	現代哲学の展開	到達目標1と3	
		6週	前項の続き	到達目標1と3	
		7週	前項の続き	到達目標1と3	
		8週	前項の続き	到達目標1と3	
	4thQ	9週	現代哲学と科学技術	到達目標2	
		10週	前項の続き	到達目標2	

	11週	前項の続き	到達目標 2
	12週	現代哲学と社会	到達目標 2 と 3
	13週	前項の続き	到達目標 2 と 3
	14週	前項の続き	到達目標 2 と 3
	15週	前項の続き	到達目標 2 と 3
	16週	成績評価の解説	到達目標 3

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	40	0	0	40	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	10	0	0	10	0	20

津山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度(2021年度)	授業科目	社会科学概論
科目基礎情報					
科目番号	0027	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	木村護郎クリストフ『節英のすすめ』萬書房。また、各自の選択テーマによって、購入すべき文献を別途指示することがある。				
担当教員	角谷 英則				
目的・到達目標					
学習目的: 専門とは異なる分野における思考方法をまなぶことによって、人間性涵養の背景となるような教養を身につけることを学習目的とする。 到達目標: 社会科学の視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	十分に授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	10回をこえて欠席すること	
評価項目2	指示に十分に合ったレポートを提出する/または口頭報告をおこなうこと	指示にある程度合ったレポートを提出する/または口頭報告をおこなうこと	指示に最低限合ったレポートを提出する/または口頭報告をおこなうこと	指示に合ったレポートを提出しない/または口頭報告をおこなわないこと	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別: 一般 人文・社会 基礎となる学問分野: 史学・ジェンダー学・社会学・言語学・障害学 学科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(4)特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球的視野に立った人間性の育成」「B-2:地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」である。 授業の概要: この科目は、近代以降に生み出された社会科学の古典やよく知られた諸学説に関する基本的な知識を参照・学習しながら、現代社会の具体的な諸問題について考えることによって、社会科学のものの見方、思考方法を身につけることを目的とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の方法: 毎週の当番報告者を中心として講義をおこないながら、受講者の意見を求め、そこからさらに議論を発展させていく方法で進める。 成績評価方法: 提出課題(100%)もしくは口頭報告(100%)。十分な参加が評価対象となる必要条件である。課題は課題提示の翌週の提出することとし、授業時間外の学習評価はその内容によってなされる。				
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: この科目の受講者には、履修のために相当の学習意欲・知的好奇心・積極性が要求される。また、講義中の積極的な発言が歓迎される。遅刻(授業開始におくれること、)に対するペナルティはもうけないが、受講者の自律性につよく期待する。事前に行う準備学習はとくにもとめない。事前に行う準備学習はとくに必要ない。 基礎科目: 世界史(1年)、政治経済(2)、日本史(3)、「人間と文化」(4)、「人間と社会」(5) 関連科目: なし 受講上のアドバイス: この科目の受講者には、履修のために相当の学習意欲・知的好奇心・積極性が要求される。また、講義中の積極的な発言が歓迎される。遅刻(授業開始におくれること、)に対するペナルティはもうけないが、受講者の自律性につよく期待する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
選択					
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、導入「社会科学」とはなにか。		以下、毎週、レポート/プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。
		2週	社会科学の思考について		
		3週	演習		
		4週	演習		
		5週	演習		
		6週	演習		
		7週	演習		
		8週	演習		
	4thQ	9週	演習		
		10週	演習		
		11週	演習		
		12週	演習		
		13週	演習		
		14週	演習		
		15週	後期末試験		
		16週	演習		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0